



表 1 旧南会津郡役所総工費内訳

科 目	金 額	現在の価値※	備 考
本庁舎建設費	5,583円	1億1,166万円	約204坪 1 坪当たり約55万円
表門等建設費	380円	760万円	
土蔵建設費	187円	374万円	
トイレ等建設費	161円	322万円	
落成式費用	600円	1,200万円	
諸品購入費	324円	648万円	
諸職慰労費	200円	400万円	
石橋建設費	35円	70万円	
計	7,470円	1億4,940万円	

出典：室井康弘「旧南会津郡役所」『福島史学研究』1970年

※現在の価値について

『価格史年表』（週刊朝日編）によると、明治38年(1905年) の「あんぱん」 1 個の値段は1 銭となっています。

現在の「あんぱん」 1 個の値段を仮に 200円とすると、 1 円は1 銭の100倍となるので 2万円となります。ここでは1 円を 2 万円として算出しています。



旧南会津郡役所は、建設されてから今年で
140 年を迎えました。
この節目の年に、これまでのあゆみや関連
事業をご紹介します。

福島県指定重要文化財 明治期の擬洋風木造建築一部 2 階建内庭式

地域で愛されー40年

旧南会津郡役所のあゆみ

郡の誕生と新庁舎建設計画

南会津郡は、明治12年（1879年）に会津郡が南北に分割され誕生しました。

当初は現在の南会津町役場本庁舎に所在した、寛政2年（1790年）に建設された旧南山御蔵入領の代官所が郡役所として使用されていたが、建設から約90年が経過し、老朽化していました。

二代郡長の三淵隆衡（元会津藩士）により新庁舎建設計画が進められ、三代郡長の畠山省三の代に完成しました。

三淵隆衡の息子である忠彦は初代最高裁判所長官であり、孫の乾太郎は2024年前期NHK朝の連続テレビ小説「虎に翼」のヒロインのモデルとなった女性裁判官の三淵嘉子さんの再婚相手です。

郡民に支えられた建設と落成

新庁舎建設計画によると、新庁舎の総工費は約7,470円となっています。（表1）

このうち、県からの補助金は3,000円のみで、残りの4,470円は郡民からの寄附でまかなわれました。

当時の南会津郡（99町村）は4,521戸だったため、現在の価格に換算すると、一戸あたり平均約20,000円の負担となりました。

福島県は、昭和45年（1970年）に機構改革を実施し、出先機関を一か所にまとめる合同庁舎建設を表明しました。

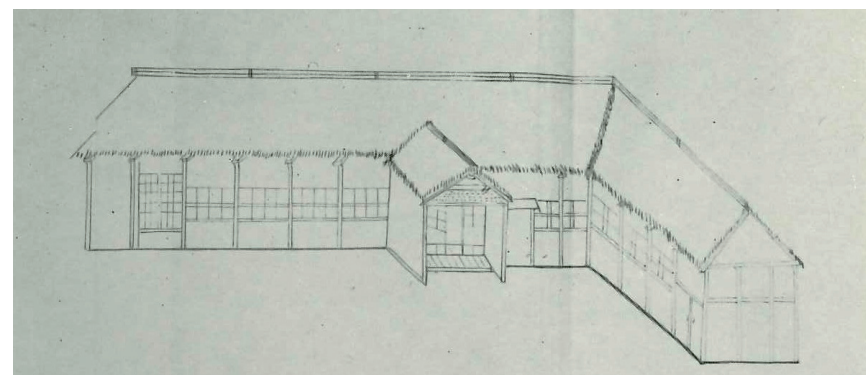
それに伴い、旧南会津郡役所は取り壊されることになりましたが、保存を熱望する人々の思いが

保存と文化財としての現在

同年8月からは南会津支庁、昭和18年（1943年）からは南会津地方事務所、昭和30年（1955年）からは南会津財務事務所、昭和33年（1958年）からは福島県南会津事務所、昭和44年（1969年）からは、田島地方行政連絡室となりました。

仕事は、教育、徴兵、衛生管理、土木、農業指導等多岐にわたっていました。郡には課税自主権がなく独自予算がありませんでした。そのため、これらの仕事を行う経費は、国・県からの補助金や郡内町村の拠出金でまかなわれていました。

郡制は、大正15年（1926年）に廃止されます。以後、南会津郡役所は次々と名称を変えていきます。



当初の郡役所庁舎見取図

県に届き、現在の場所に移され、保存されることとなり、昭和46年（1971年）に福島県指定重要文化財に指定されました。

建物の活用として、佐藤耕四郎、慧親子が奥会津地方各地から収集した民具が展示されることが決まり、昭和47年（1972年）5月



祝賀行事のようす（昭和時代）

建設は、明治18年（1885年）5月15日に着工し、同年8月15日に竣工しています。落成祝賀式は8月23日に盛大に行われました。この規模を誇る建物がわずか3か月で完成したことは驚きです。これは、明治政府の威厳を郡民に示すために工期を短くしたと考えられます。

洋風建築の意匠と技術

工事は主に南会津郡の業者が担いました。大規模な洋風の木造建築は棟梁達にとっても初めての仕事であったことでしょう。

材木は田島周辺から集められ、土台の石材は本町、永田から採掘されました。それ以外の資材は東京から購入しています。二階の屋根はトタン葺きで、コールタールが塗られました。

外壁は白壁で仕上げられ、窓は自在式でカーテンが付けられました。玄関扉や二階テラス扉の上部にはステンドグラスがはめ込まれ、現在でも当時のままの姿で優しい光を届けてくれています。

大正3年（1914年）に大規模な補修が行われ、二階の建物の

に奥会津地方歴史民俗資料館としてオープンしました。

現在は、旧南会津郡役所として一般に公開しています。

参考文献

『田島町史第三巻 通史 近代』

開庁 140 周年事業の開催について

旧南会津郡役所では、このたびの旧南会津郡役所開庁 140 周年を記念して、さまざまな記念事業を企画しています。

開催日時や内容、料金等の詳しい情報は今後、ポスターやチラシ、町ホームページ等でもお知らせしますので、皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひご来館ください。

◆写真展（町の歴史・暮らしの様子を記録した写真を展示）

開催時期：7月上旬～

◆創作浄瑠璃 他 上演・楽器演奏会

開催日：8月10日（日）

開催時間：未定

◆奥会津博物館文化財専門員による記念講演会

開催時期：10月開催予定

（会場・問合せ）

旧南会津郡役所

住所：南会津町田島字丸山甲 4681番地 1

電話：0241-62-3848

郡役所の役割と変遷

次に、旧南会津郡役所の人員や仕事内容について紹介します。

明治39年（1906年）の記録によると、郡長1名、郡書記7名、郡視学（郡長の命令をうけて、郡内小学校の学事視察・教育指導・教員の任免・学事に関する庶務等に従事する人）1名、農業助手1名、用務員等2名の12名体制です。

壁には下見板が張られ、現在のような外観になりました。屋根はトタン葺きから小羽（木材を薄く割った屋根材）葺きとなりました。

